

## VII-2 ICG を用いた乳腺センチネルリンパ節生検

戸井雅和、高田正泰

京都大学乳腺外科

ICG の蛍光特性に着目した蛍光ガイド下リンパ節生検法は、いくつかの探索的検討、既存の二つの手法との多施設共同比較試験、多数の単独施設での臨床研究や試験などを経て、また種々の機器の開発等とも相俟って、乳癌の診療に広く用いられるようになった。保険収載も含め国内で普及するとともに、国外においても多くの施設で応用されている。一連の経緯においては、技術の開発はもとより重要で、それに基づいた臨床応用が必須であるが、加えて、臨床試験、特に比較試験の実施、その中で手法の確立、標準化が行われ、結果の発表、分析を経て、国際的なコンセンサスの形成なども欠かせないと思われる。リンパマッピングとしての有用性ととともに、切除個数とのβ組み合わせから、転移があっても限られたものであれば腋窩を温存する治療法の進展に一つの役割を担ったことは評価されて良いと思われる。さらには MIPS への応用という形で新しい展開も見えてきている。実地への応用に焦点をあて論を進めたい。